① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗 状況 *
1-1.『駅の待合室』が困難を抱えた子ども・若者の居場所として開設される。	『駅の待合室』案内パ ンフレット作製・配付 回数。 行政・関係機関・地域 住民への周知回数。	パンフレット 2 5 0 0 部作製・ 2 回配付 紹介のための説明会開催 (2 0 回)	2020年9月	佐久総合病院小海分院、はぁーと工房ポッポコレクティブインパクトで週5日運営継続	2
2-1.『駅の待合室』が、南佐久 6町村教育委員会の共同運営に よる「中間教室」機能を担うよう になる。	6か町村教育長による委託契約の締結を 進める。 6か町村共同開催に よる運営会議の定期 開催。	年度4回の事例検討会(運営会議) の開催	2023年3月	「中間教室」の枠組み は得ていないが、実務 的に子ども・若者の居 場所として機能継続中	4
3-1.『駅の待合室』で出会った 人同士が参加するぷれジョブこ うみの定例会が月1回定例で開 催される。	月1回の定例会開催 (3年度で36回) 定例会を機縁とした ケースワークの展開	定例会の継続(3年度で36回開催) 個別事例10件のチームを確立	2023年3月	コロナウイルス感染症 の影響により対面形式 での開催頻度は減少中	2
4-1.駅舎2階スペースを活用 した『公開講座』が月1回定例開 催されるようになる。	月1回の公開講座:開 催回数 参加者の拡充・年度1	公開講座報告集 (仮称) の発行 (3 冊)	2023年3月	小海町高原美術館との 協働により「浮田要三 と『きりん』の世界」展	4

	冊の報告集の編集発 行数			を開催中	
5-1.一般社団法人ぷれジョブ 長野支部が事務局を担う「こう み居住支援協議会」が設立され る。	「新たな住宅セーフ ティネット制度」への 参画 地域のニーズに応じ た個別支援件数	「居住支援協議会」の設立 (国土交通省より認可) 「長野県住宅確保要配慮者円滑入 居賃貸住宅事業」登録 個別支援件数:3件(2021年 3月)	2020年8月	2021年7月に小海 町社会福祉協議会に運 営を移管し「南佐久居 住支援協議会」として 対象地域を拡張	1

^{*}進捗状況:1計画より進んでいる、2計画どおり進んでいる、3計画より遅れている、4その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み

2.概ね達成の見込み

2.アウトカムの状況

A:変更項目

□変更なし ☑短期アウトカムの内容 ☑短期アウトカムの表現 ☑短期アウトカムの指標 ☑アウトカムの目標値

3.(任意) 活動に関する報告

当初、事業のテーマとして掲げた「生きづらさのある市民の居場所作り」の事務内容について従来の『医療モデル』の視点(一人の市民の中に障害や生活のしづらさを認め、それを以下に治癒(除去)するか?と捉える)を軸に想定していた。日々の運営を試行錯誤する中で新たに『社会モデル』の視点(一人の市民に社会参加を促進するために地域の社会資源を豊かにするための環境整備を模索する)の必要性に気づかされた。このことから、協働の力点を当初の医療保健福祉領域に限らず、芸術教育領域へと拡張することを模索した。具体的には小海町高原美術館との連携を強化充実させることにより、二つの展覧会(「浮田要三と『きりん』の世界」展と「小海町の文化再発見」展)への企画協力を実現しつつある。人数は多くないながら、「生きづらさを抱えた若者」の自己実現を支援する、質的なエビデンスを確実に重

ねながら地道に「えきノまちあい室」を運営している。今後は、こうした進捗を評価しながら、次年度以降の自走体制の構築に向けて、町 内の各機関との関係づくりや連携の強化を模索したい。

③ 広報に関する報告

1	シンボルマー	クの使用状況

- □自団体のウェブサイトで表示している □広報制作物に表示している
- □報告書に表示している ☑イベント実施時に表示している □その他
 - →「その他」を選択した場合は記載してください(自由記述):

2. 広報

1.メディア掲載(TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

Facebook

2.広報制作物等

広報チラシ

3.報告書等

今後検討予定

4.イベント開催等(シンポジウム、フォーラム等)

展覧会企画時の広報

添付資料

活動の写真(画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度)





地元高校生によるシャッターペイント作業



小海町高原美術館との協働により「浮田要三と 『きりん』の世界」展を開催